

新移民に対する総合中国語コースにおける文法翻訳法の応用と検討

蔡 喬育(Cai, Qiao Yu)

言語教育学科

(Department of Language and Literacy Education)

国立台中教育大学

(National Taichung University of Education)

台中・台湾(Taichung, Taiwan)

iku@mail.ntcu.edu.tw

要旨「翻訳」の観点から言えば、中国語を母語としない学習者が翻訳を通して中国語を学習することは、ひとつの自然なプロセスである。中国語を教える者の観点から言えば、教師あるいは学習者にかかわらず、一種類以上の言語能力によってコミュニケーションを図っている。もし「翻訳」という手段が実際の授業の中でどのような役割をはたしているかが分かれば、どう翻訳が中国語学習者の言語変換の助けとなっているのかと教師が考えることに於いて役に立ち、中国語のいろいろな知識を学ぶことができるだろう。この文章を書き始めるきっかけは作者が教えていた授業「新住民學華語文¹」を観察したことからである。中国語の授業を進めていく中で、「上級者クラス」と「初級者クラス」に分かれ、異なる学期にそれぞれ 72 時間ずつの中国語授業を行った。授業で学生たちとの触れ合いから、ひとつわかったことがある。それは「翻訳」という言語変換は一種の自発的な学習行動である。同じ母語を背景にもつ学生たちは、自分の母語を使って中国語の学習を互いに助け合い、また教師と学生とのコミュニケーションでは、主に英語を用いて補っている。

キーワード—翻訳、中国語教育、新住民

I. 序

「翻訳」の観点から言えば、中国語を母語としない学習者が翻訳を通して中国語を学習することは、ひとつの自然なプロセスである。中国語を教えるという観点から言えば、教師あるいは学習者にかかわらず、持っている一種類以上の言語能力によってコミュニケーションを図っている。もし「翻訳」という手段が実際の授業の中でどのような役割をはたしているかが分かれば、どう翻訳を通して中国語学習者とコミュニケーションを図るためにより効率的にしていくか、ということに役立ち、それは中国語学習者の言語変換や中国語のいろいろな知識を学ぶ手助けにもなる。この文章を書き始めるきっかけは作者が教えていた授業「新

住民學華語文」を観察したことからである。最初のクラスの学生たちは、クラス分けテストの結果によって「上級者クラス」と「初級者クラス」に分けられ、「上級者クラス」は流暢な中国語の学習者、「初級者クラス」は、中国語をゼロから始める学習者である。「上級者クラス」に使う教材は「高級商務華語文（上級者ビジネス中国語）」、「初級者クラス」に使う教材は「基礎生活華語文（基本生活中国語）」。この二つのクラスは異なる学期にそれぞれ 72 時間の授業を行った。以下は授業で「翻訳」が使われている状況の記述である。

一般的には、「翻訳」は言語の学習について役に立つと考えられている。しかし、ここで考えなければならないひとつ目の問題は、第二外国語を学習する環境の中でどのように翻訳し教えるのか、教師は授業を行う上で、翻訳が外国籍の学生が対象言語を学習するのに役立ち、十分使いこなすことができるのかという点である。

文献上では「翻訳」を使用し第二外国語を習得することの検討において、まず初めに「翻訳」とは伝統的な「文法翻訳法」(Grammar-Translation Method)ではなく、「賢明な運用」翻訳(a judicious use of translation)であることを主張する(關道雄, 2012)。以下はその二者を元に異同対照表を作った(表 1)。表から「文法翻訳法」は教師が主導する教え方である(Larsen-Freeman, 2011)。学生たちが行っていることは、決まりある翻訳の練習である。「賢明な運用」翻訳は半分以上が「翻訳」を使っただけの練習である。教師の具体的な教え方は「ミッション型」という教育理念を用いて、それは訳すということを生かして学習者の学習意欲を高める方法でもあり、また教師はこのような翻訳結果から教え方の効果を評価する。

表 1 「賢明な運用」翻訳と文法翻訳法

「賢明な運用」翻訳	文法翻訳法
リアルな課題を通し、第二外国語の授業で交流を増やすことにより、学生に翻訳の複雑さを触れさせる。	外国語を学ぶ目的は、その言葉や文化と芸術の双方の方面に関する文字資料などの読み書きができる。

¹ 中国語を母国語として使っている国(台湾)に移住した母語が中国語でない方のための中国語の授業です。ちなみに、この授業は台湾政府からの支援がある。

第二外国語と触れ合った学習者にとって訳すことは認知のプロセスである。同じ母語を使っている学生たちにとって特に役立つ。	訳すことはメンタルにも良いことであり、学生たちの心の成長に良い影響をもたらす。
訳すことを通して母語と対象言語とのつながりが記憶の強化を作り出す。	学生は対象言語の文法規則、言葉の変化及び対象言語内と母語の中で対応する単語を覚えなければならない。
分析の得意な学習者にふさわしい。	対象言語の文の組み立てを学ぶことが非常に重要である。
複雑な言葉遣いの規則がわかる。	教師は学生たちが正しい答えを得られるかどうかを重要視する。
学習者に正しい言葉を使うことを注意させ、同時に複雑な言葉の組み立てを使わせていく。	読み書きは学習の主な技能となり。聴解と会話は重視しない。
言葉や文化の相違点に注意することができる。	学生たち同士の交流が少ない。
内向的、または語学力の良い学習者に適している。	通常ゼロから始めた学習者と初級の学習者に使う傾向がある。

資料：本研究の整理より

關道雄（2012）の研究により、彼はタイプの異なる翻訳任務をビジネス中国語授業に取り入れ、各任務にはそれぞれの学習ポイントがあり、学生たちはそれらの学習を終えた後、これらの翻訳練習のアンケート調査を行った結果、多くの学生はこの活動にかなり肯定的であり、中国語の学習には役に立つと思っているとのこと。例えば 90%の学生が「翻訳の練習は特定の文型を身に着けることに役に立つ」の質問に、良いか非常に良いと答えた。最も得点の低い「総合的には翻訳の練習は中国語のレベルを上げることに役に立つ」という質問でも 83%の学生が良いか非常に良いと答えた。

しかし、先の表の中に「賢明な運用」の第二項目『同じ母語を使っている学生たちにとっては特に役に立つ。』に注意してもらいたい。關道雄の研究の中で、学生は全員北米ビジネス中国語を学ぶ学生で同じ母語を持っており、中国語の環境でない所にいることから翻訳の練習に高い評価をしたのである、と説明した。

本研究ではの学習者は中国語環境にある台湾に身を置いているが、学生は異なる国から来ており、異なる母語を使っている。その違いの中で「翻訳」はどんな役割を果たしているのか観察することにより、どのように翻訳に関する授業計画として進めていくかを考えていく価値がある。以下は本研究での二つのクラスの

学生の背景、教材の性質、授業での教師と学生との交流、及び教え方の提案である。

II. 授業観察

以下は本研究での二つのクラスの学生の背景、教材の性質、授業での教師と学生との交流、及び教え方の提案である。

A. 中国語「上級者クラス」

中国語「上級者クラス」はベトナム、タイ、台湾、ロシア、オランダ、日本、イタリア、キルギスの七ヶ国からやってきた学生である。その中ではベトナムの学習者が大多数を占め、5～7名ほどおり、タイと台湾はそれぞれ2名、ほかの国は1名ずつである。学生はみな成人で年齢はだいたい25～55歳くらい、職業は半分以上がサラリーマン、教育職（幼稚園教師、大学講師など）、台湾の大学院で勉強中、あるいは専業主婦などである。大体8割の学生は台湾で結婚し、その結婚相手は台湾人、あるいは中国や香港から来た華僑の人である。そのため、中国語を学ぶ動機は主に家族、同僚、近隣住民や友達とコミュニケーションを図ることができる、ということからである。

1. 「上級者クラス」の教材

授業の内容は國立臺中教育大學國際華語文教材教法研究室團隊（国立台中教育大学国際中国語教材教養方研究室チーム）が開発した「全球商務華語文 II：高級華語文程度者適用(全国ビジネス中国語 II：上級者中国語レベルに適應)」を基にしている。その教材のデジタル版を使った方のある満足度調査の研究では、外国人²の学習者は会話式の内容が実用的であるのではないかと、ということが分かった。それに、授業でビジネス商談交渉を背景にしたコスプレが面白いという意見がある。教材のレベルも中級以上のビジネス中国語学習者にふさわしいと考えられているようである（劉瑩、周靜琬、蔡喬育、姚蘭、陳燕秋, 2014）。そのほか、ビジネス中国語の一つの特徴は、その目的と実用性が強い。「中国語が母語でない学習者が、さまざまなビジネス状況で中国語で交流することを實現させる」ということが目的である（關道雄, 2012）。そこで、關道雄はビジネス中国語教育の中で翻訳の練習とミッション授業を組み合わせることが、大人の学習者が自らの優位を發揮し、身に着けている認知能力を使って言葉を分析し、さらに言葉の知識を得ることができる。

2. 「上級者クラス」の観察

本クラスの学生たちは中国語の環境にいる学習者である。中国語を勉強するチャンスは授業に限らず、いつでも練習するチャンスがある。同時に、無意識の中で、自然に母語と対象言語での翻訳の練習をしていることがある。実際の授業では、翻訳の練習は母語の異なる学生たちを相手にすると、かなり複雑になり、やりづらい。だが、学生たちはみな中国語を勉強する動機がとて強く、そのため多くの時間では中国語で

² ここでの外国人は台湾人でない人を指す。

の授業を楽しみ、それに加えて教師の英語を理解し翻訳する英語能力を持っている学生は 1、2 人しかいない。このときに難しい言葉やわかりづらい文型に出会った時、以下の学習対策を採用した。

- 中国語レベルの高い学生が彼らの母語を使って他の学生に説明をする。
- 発言が得意で外向的な学生が、中国語を使って先生と一問一答したりして言葉の意味や使い方を理解しようとする。話し合いの途中でほかの学生たちも参加し、みんなで一緒に難しいところを理解するようにする。
- 英語能力のある学生は、先生と他の学生が交流する時には主に中国語を使うが、先生が英語で説明してくれることで受け入れやすい。

全体的に言葉が使われている状況を見ると、対象言語ー中国語は学生たちがコミュニケーションをするときに最も重要な手段である。そのため同じ母語の学生たちはお互いに無意識の中で母語と対象言語の翻訳をしてしまう。異なる母語を持っている学生たちはコミュニケーションの基礎をつくるために、英語ではなく中国語で交流する。その原因はおそらく英語できちんと表現できない、あるいは相手が英語を聞き取れないことである。だから、中国語で話し合いが続けられない時は教師が通訳者としての役割を務め、英語と中国語の言語変換を使い、学生たちにそれぞれ必要な情報を与えていく。

B. 中国語「初級者クラス」

中国語「初級者クラス」はタイ、アメリカ、フランス、ロシア、ベトナム、モンゴル、日本、ポーランドの八ヶ国からやってきた学生である。タイからの学生は 3 名おり、そのほかは 1 名ずつである。こちらも成人のクラスで、年齢は 21~45 歳ぐらいである。その中の 6 名の学生が台湾で仕事をしており、その他 4 名は若い学生で台湾の大学院で勉強している、もしくは今後台湾の大学で勉強したいと考えている学生である。そのため仕事上、学業上、あるいは生活上での必要性にかかわらず、彼らは自分の中国語能力を強化することでいろいろな中国語の環境に入ることができると考えている。

1. 「初級者クラス」の教材

「基本生活中国語」は中国語初心者の学習者のために考えられた教材である。そのため、二カ国語で編集した内容になっている。最も特別なのは今回使用するの唯一中国語とタイ語で編集した教材である。中国語と英語を照らし合わせた内容ではなかったため、教師は英語の翻訳を使用することで、単語、文型、会話などを解説していくのが主な授業方式となっていた。

2. 「初級クラス」の観察

本クラスの欧米外国人はほぼ、教師の英語での説明を通して授業の内容を理解する。大学院で勉強する

英語能力の高い学生の 2 人を除いて、ほかのアジア地域の学生は教師が中国語で内容を説明するものを好む。

授業で使用する言葉のパターンは以下の二つ：

- 学生同士の交流、特にお互いに助けあう時には同じ母語を持っているアジア学生は直接母語でコミュニケーションを図り、上級者クラスと類似する。欧米の外国人学生は英語でコミュニケーションを図る。
- 英語は学生たちに授業の流れを理解させる時の助けとなる。例えば、学生に文章のどの段落を読むのか、或いは次に行うことの注意事項や順番などを教える時。また他には、学生の質問に答える時。これ以外にも学習のポイントは中国語で練習を繰り返すことである。

授業の状況を全体的で見れば、アジア地域の学生は直接中国語を用いての学習、あるいは教師とのコミュニケーションを図ることを好むということが分かった。そのため、中国語の表現力がより豊かでより変化がある。欧米の外国人学生はとても高い聴解や会話などの英語力を持っている。そこで、英語は授業でのサポートのほか、教師と学生の交流(学生の質問に答える時)にも使われている過程の中で、普通英語の出番は授業で出たある単語かある文型の使い方をさらに解釈するとき。教師と学生が質問をしたりする時には学生も積極的に英語で教師の説明を手助けする。

このような教師と生徒の交流パターンは、Krashen たちの学習者が第二外国語学習に関して示した学習概念にかなり反映されている： $i+1$ 。それはこれら成人の学習者たちの学習動機が自発的な学習参加であり、生活上の知識をさらに充実させたい要求であると言える。そのため、積極的に自分の能力範囲以上の「より多く」の情報を得ようとし、さらに自分の言語能力と知識を向上させる。

III. 結論

今まで授業で観察した「翻訳」は、実は教師により主導し、英語で説明するための手段であり、学生たちの言語学習にも確かに潜在意識の中に母語と対象言語の翻訳操作が存在する。もし「言語変換」という手段をうまく使うのであれば、クラス編成時に中国語のレベルで「初級」、「中級」、「上級」を配慮すると同時に、学生の母語背景及び英語のレベルも考慮し学生に本当の「翻訳」を使うことによって言語を学習させることができる。オーストラリアの学者 S. Campbell は、第二外国語を学んでいると同時に学習者は翻訳をしている。だから、どう翻訳を学習することができるか、というのは自然な一種の第二言語の学習方法である (Campbell, 1998)。「賢明な運用」翻訳は一種のミッションとなり、それによって意識的に誘導し、学生が学んだ思い出や関連する語彙を連想させる、あるいはすでに学習した文法の組み立てを刺激させ、中国語への理解や中国語の能力を高める手助けとなる (關道雄, 2012)。

参考文献

-
- [1] 劉瑩、陳燕秋、蔡喬育、姚蘭、周靜琬「探究商務華語文之教學設計與教學實踐：以教授開南大學外籍生「產品介紹」單元為例」『第四屆兩岸華文教師論壇』世界華語文教育學會、北京華文學院，2014-08-22/26。世界華語文教育學會。北京，北京華文學院。2014。
- [2] 劉瑩、周靜琬、蔡喬育、姚蘭、陳燕秋「商務華語之教材設計與教學實踐-以教授逢甲大學外籍生「商業談判」元單為例」『第十一屆世界華語文教學研討會』世界華語文教育學會、國立臺北教育大學，2014-12-26/28。世界華語文教育學會。臺北，國立臺北教育大學。2014。
- [3] Campbell, S. (1998). *Translation into the second language*. New York: Addison Wesley Longman
- [4] Larsen-Freeman, D., & Marti, A. (2011). *Techniques & principles in language teaching*. Oxford: Oxford University Press